

# ルネサス懇

<発行者>  
ルネサス関連  
労働者懇談会  
(ルネサス懇)  
意見と情報は、  
〒142-0043  
東京都品川区二葉  
2-20-8染野ビル  
(電機労働者  
懇談会気付)  
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオ  
ンへの相談は、



## 理解できない定昇延期

ルネサス社員から上がる反発の声を無視するが如く、会社はベア無し、定期昇給の半年延期を強行しようとしています。

そもそも会社は、現時点においても定昇延期による費用効果がいくらになるのか、社内においてさえも示していません。これで納得できる社員は、ふつう居ないのではないのでしょうか。

例えば新規商談を受注審査にかけるとき、買価と原価と生産数量から開発費はいつまでに回収できる見込みで、原価率はいくらかという話を抜きにはできません。コストが不明なまま審査を通すような加減な仕事など、社員は誰もしていません。むしろ、きちんと仕事をしている人の中にさえ、LOWやBOT TOMの評価をもらう人がいるのが実態ではないのでしょうか。

## 不可解な説明の上塗り

ルネサス労組との交渉では、終盤になって「昇給率を下げた4月から定昇を行うことも検討したが、長期的な報酬への影響を考慮して、昇給率を維持して延期する方を選択した」という主旨の文言が見られるようになりました。しかしここで具体的な数値もなければ、計算式もなく、何を言っているのかよく分からないものになっています。

会社は、定昇延期を含むコスト削減をP/L(損益)への効果とし、M&Aはキャッシュフローの活用に関わるから別だと言います。しかし定昇延期をしないことと、8900億円もの巨額で企業買収をすることの一体どちらが経営上のリスクとして大きいかなど、一目瞭然ではないのでしょうか。何だか詭弁を弄して社員を煙に巻こうとしているかのよう感じます。

## 春闘尊重こそグローバル

3月26日の株主総会で、柴田CEOは「日本企業は『グローバル』と言う割に、賃上げの議論だけはすくなくローカルだ」「ベースアップなど日本以外ではほぼ聞かない」と述べたと日経新聞が報じています。

企業別労組が主体の日本の労働組合では、賃金交渉が個々の企業内で行われるため、企業の枠を超えて社会横断的に補完する仕組みとして春闘があります。また、職種別賃金が明確に定義されていない日本では、春闘においてベースアップによる一律の賃上げを目指すことが、社会的に重要な意味を持っています。さらに春闘の成果は、人事院勧告を通じて公務員の賃金にも波及するため、春闘には大変重要な役割があります。

ILOの多国籍企業宣言でも、「地域の慣行を十分考慮」することを求めています。日本においては、春闘やベースアップを尊重することこそが、真にグローバルだと言えます。

賃金はP/Lに、M&Aはキャッシュフローに関係するから、財務的にまったく別です。

ぶっちゃけ、詭弁じゃね?

M&Aの借金返済はP/Lに入るのでは?

なんじゃそりゃ

All Hands Up Meet ing

ここにてLE